

「情報公開文書」

2014年4月1日～2019年3月31日の間に札幌医科大学附属病院産婦人科において子宮体がんに対し腹腔鏡下手術を受けられた方へ

「腹腔鏡下子宮体がん手術を行った95例の術前画像評価と術後病理組織診の比較検討」
へご協力をお願い

1：研究の対象

2014年4月1日～2019年3月31日までの間に子宮体がん1A期を疑い当院で腹腔鏡下手術を行った95例の患者さんの調査を行います。

2：研究目的・方法・意義

子宮体がんは、高齢化や食の欧米化などを背景に罹患率が増加しています。高齢で診断されることも度々あり、より侵襲の少ない手術が求められるようになってきています。2014年4月に早期子宮体がん（1A期疑い）に対しての腹腔鏡下手術が保険適応となり、腹腔鏡手術の技術の進歩もあり当院でも腹腔鏡下手術が増えてきています。

今後、子宮体がんに対する腹腔鏡下手術が増加していることが予想され、術前の画像診断の重要性が増していくと考えられます。そのため、画像評価の高い正診率が求められるようになっていきます。

当研究は、子宮体がん1A期を疑い手術した症例のうち、術後病理組織診にて1A期と診断された症例の数を確認し、術前評価の正診率を確認することを目的としています。1B期以上の進行子宮体がんであった症例に関しは画像を見直し、どういう理由で1A期を疑ったのかを確認することで、今後子宮体がんの症例に対して画像評価する際に注意すべき点を考慮してゆきます。

3：研究に用いる患者さんの情報

当院婦人科で治療した患者さんのカルテ記載情報から、術前の画像診断の記載、術後の病理組織診の結果を確認します。術前の評価と術後の病理組織診の結果を比較します。

4：外部への患者さんの情報管理

法研究で用いる調査は、表に入力し、個々の患者の名前は匿名化して管理します。研究終了後の破棄については研究代表者の責任において行います。

5：研究組織

札幌医科大学医学部 産婦人科学講座

研究責任者 助教：寺田倫子

研究分担者 講師：松浦基樹

6：研究予定期間

病院長承認日～2020年3月31日

7：予定症例数

2014年4月1日～2019年3月31日までの間に子宮体がん1A期を疑い当院で腹腔鏡下手術を行った95例の患者さん

8：問合せ先

この研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますので、お申し出ください。

9：患者さんが研究のデータを提供したくない場合

この研究に関して、個人の資料・情報を用いられることについて患者さん、もしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年1月31日までに下記連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。あなたに関わる研究結果は破棄され、診療記録などもそれ以降は研究目的に用いられることはありません。ただし、ご連絡をいただいた時点ですでに研究結果が論文に公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことが出来ず、研究参加を取りやめることができなくなります。

10：研究結果の公表

この研究は氏名・生年月日などのあなたを特定できるデータをわからない形にして学会や論文で発表しますのでご了解ください。

照会先および研究へのデータ利用を拒否する場合の連絡先：

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 産婦人科

研究責任者 寺田倫子

電話：011-611-2111 内線 33680 （平日 9：00～17：00）

FAX：011-621-8059 （休日・時間外 17：00～9：00）